研究発表会の振り返り

第４学年国語科

「アイテムの効果をとらえて読もう」

授業者　宮脇　隼

本時の主張点

アイテムの効果に着目することで文学作品の構造を読み取る見方・考え方を働かせ，細部から文章全体を捉える読みの力を育むことができるだろう。

１．授業づくりの「しかけ」と子どもの探究

本時における授業づくりの「しかけ」

本時における探究の質を高める場面は,「重要なアイテム」の効果を考えることから文学作品の構造へ目を向けていく場面である。ここで重要となるのは起承転結の構造である。出来事のきっかけを承，結末のきっかけを転と考えることで，文学作品の構造に目が向き，これまでの読み取りが一般化されていくであろう。そのための「しかけ」となるのは，効果に着目してアイテムを視覚的に分類することである。そのために，アイテムの位置関係を文章全体で把握できるような板書や掲示を行う。

授業づくりの「しかけ」①

【活用をうながす課題設定】

本時では、これまでの子どもたちの学びが活用される課題を設定しました。子どもたちは、これまでに学習した教材を例に出しながら、自分の読みを形成することができました。また、アイテム選びの視点として「〇〇のきっかけ」という言葉を使い、物語が大きく変化する場面を読み取っていました。同じ課題で既習教材である「ごんぎつね」も授業を行った際に、子どもたちは「うなぎ」と「火縄銃」を重要なアイテムとしていました。理由は、「話が始まるきっかけ」「ごんが死ぬきっかけ（結末へ向けて展開する）」でした。本教材にも、物語が大きく変化する場面があります。既習の教材とのつながりに気づき、きっかけをキーワードに重要なアイテムを見つけさせました。

子どもたちの多くは、物語が大きく動き出すきっかけとなる「石けりの輪」、結末へ向けて展開する「よもぎの葉（一まいの葉）」「なぞなぞ」に着目していました。

子どもの発言より

（重要なアイテムが「石けりの輪」で話し合う場面）

Ｔ：じゃあ、「石けりの輪」でほか（の理由は）ある？

２９：石けりの輪がなかったら別の話になるやろ。だから石けりの輪がきっかけで話が変わる。これを重要にしたのは「ごんぎつね」のときに「うなぎ」がきっかけやから、重要にした子が多かったやろ。だからこれにした。

授業づくりの「しかけ」②

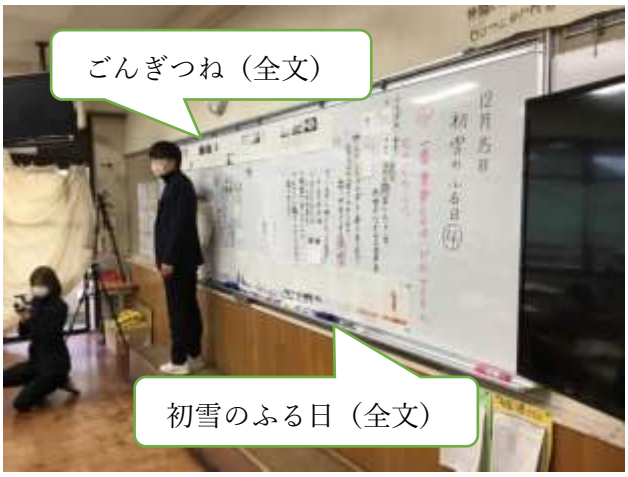
【文章構造に目を向ける板書】

子どもたちが選んだアイテムが文章全体のどこで登場するのかを全文掲示したものに書き込んでいきました。その際、「初雪のふる日」だけで行うのではなく、既習教材である「ごんぎつね」を並列させて板書しました。結果、子どもたちが重要だと考えるアイテムは、物語が大きく動き出す「承」の部分にあることや、物語が結末へと向かう「転」の部分にあることに気づくことができました。

授業後のふりかえりには、起承転結の文学作品の構造に着目するものや、他の作品への興味を広げているものが見られました。

２．本時における教師による評価

授業づくりの「しかけ」②
文章構造に目を向ける板書
　アイテムの位置関係を全文掲示し，文章構造を意識しながら，アイテムの効果に着目して分類できるようにする。



「初雪のふる日」と既習の教材である「ごんぎつね」の全文を２段に分けて板書しました。全文を掲示することで、子どもたちが重要だと考えるアイテムの場所がわかりやすく、視覚的に文章の構造に着目させようと考えました。物語が大きく変わるきっかけは、「承」や「転（結）」の部分に登場します。それに気づかせようと考えました。さらに、二つの作品を２段で掲示することで、共通する部分に気づかせ、そこから「文学作品って、ひょっとして重要なアイテムは同じようなところにあるのかも…」と本時で学習したことを一般化させようと考えました。それが、汎用的な読みの力です。

本時では、「ごんぎつねと同じように、うなぎがきっかけだから…」というように、既習の教材と比べて「初雪のふる日」を捉えようとする子どもの姿が見られました。ただ、アイテムという視点で読み取ったことを、他の文学作品でも同様であると気づくところは、教師によってまとめる授業となりました。子どもたちに気づかせるために、もっと丁寧に全文掲示を活用し、アイテムの位置に着目させる必要がありました。

協議会では、民話的な「ごんぎつね」と、ファンタジー作品の「初雪のふる日」を並列させて、子どもたちにアイテムの効果から文学作品の共通性を見つけるのは難しいのではと教えていただきました。文章の構造も「起承転結」の四部構造と「現実の世界、不思議な世界、現実の世界」の三部構造では、構造が異なります。本実践では「初雪のふる日」に合わせ、ファンタジー教材を並列することで、不思議の世界への入口と出口に関するアイテムに着目させることができたと考えています。

今後も、教材研究を重ね、子どもたちに汎用性をもった読みの力を育てていきたいと思います。